

At Stampur, May 2005



At Stampur, August 2012



水は命 砂漠化が緑へ

心
あ
っ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

NMCAA
NO3

同じ場所の変化とは思えないこの写真はパキスタンで医療活動を支援する国際NGO(NPO)団体のペシャワール会の中村医師が、中心となって行ってきた「緑の大地計画」で進められ、奇跡を起こした。

もともとは難民支援の医療活動であったが、大干ばつで、餓死で苦しむ人を前に「病気を治す前に、まずは生きよ」と水事業に取り組んだそうです。全国に呼びかけた「いのちの基金」をもとに始まった計画は、アフガニスタン東部における灌漑・用水路建設を含む総合農村復興事業だった。それは、難工事の上、米軍ヘリの機銃掃射(誤射)を受けることもあった。しかし中村医師、日本人ワーカー数十人、現地職員120人、村人1日600人が働き、延べ60万人の手により全長24・3キロメートルの用水路を完成させた。用水路は、川辺に柳の木を植え、その根で岸を補強。円筒形に編んだカゴに石を詰めたものを使うなど、日本の伝統的な技

最新の技術よりも日本の伝統技術が使用されたのは、現地の住民がその自分達で維持していくため。灌漑用水路は14,000ヘクタールの砂漠化をまぬがれ、60万人の農民が生活できるようになったという。

参照 ペシャワールの会名古屋
g r a p e

本気！松岡修三

「修造学園 もうビリはイヤだ！新体操ボーイズ涙の合宿」というテレビ番組で、全国大会最下位のチームの心の成長の内容です。日本一熱い先生松岡修三さんが子供達に最も伝えたかったことは

「みんなの心が一つになった時に、どれほどすごい物が出来上がるかという事です。子供たちはそれを最終日の演技発表で実感したと思います。でも、そのためには本気にならなければならぬ。メンバーそれぞれ一人一人が、全員が本気にならないと達成できないし、いい演技はできない、ということ。彼らは感じたいと思います。」松岡さんと東京女子体育大学・新体操競技部が本気で向き合います。その結果最下位から脱出さえできればよかったです

子供達が心の技術も向上していました。そんな松岡さんテニスの全米オープンで錦織選手とマレーの試合の解説中に音声スイッチを切ってしまったそうです。それは錦織選手が最後まで諦めずに自分と戦っている姿を見ていて、ジュニアの頃の小さな姿と重なって涙が止まらなくなってしまう、音を消し、解説ブースで泣き崩れたそうです。

編集後記

命を守りたい気持ち、砂漠を緑に変え、大勢の人のためになりました。

本気の心が、子供にも伝わり、その子は大きく成長していきます。私達の想いが、ただだけ大切かというところが響きます。始まりは人の想いからで、その想いの強さにほかならないと感じました。